

企画総務委員会会議録

平成30年12月14日(金)
氷見市庁舎委員会室
開会 午前 9時59分
閉会 午前11時47分

- 1 案 件 平成30年12月定例会において企画総務委員会に付託されたもの
- 2 出席委員 6名
小清水委員長、稲積副委員長、越田委員、荻野委員、澤田委員、嶋田委員
- 3 委員外議員 積良副議長、穴倉議員、北議員、屋敷議員、萬谷議員、正保議員、竹岸議員、
上坊寺議員、谷口議員
- 4 職務のため出席した事務局職員 坂本事務局長、新井事務局次長
- 5 説明のため出席した者の職、氏名
林市長、小野副市長、藤澤企画政策部長、高橋総務部長、天坂広報情報課長、戸田地域振興課長、
京田新文化施設建設室長、川淵総務課長、森川税務課長、大門財務課長ほか関係職員
- 6 傍 聴 人 5人
- 7 付 託 議 案 別紙付託案件表のとおり
- 8 経過及び結果
 - ・小清水委員長が開会を宣告し、市長挨拶の後、議事を進行した。
 - ・当局の説明を受け質疑応答を行った結果、いずれの案件も全会一致をもって原案を可決又は承認すべきものと決した（主な質疑応答は別紙のとおり）。
 - ・委員会報告は「新文化施設の整備について」及び「財産区について」を特筆することとし、作成は委員長に一任された。

氷見市議会委員会条例第27条第1項の規定によりここに署名する。

平成30年12月14日

氷見市議会企画総務委員長

小清水 勝則

平成30年12月企画総務委員会付託案件表

平成30年12月14日(金)午前10時

氷見市庁舎A棟2階委員会室

◎ 地域振興課

- ・ 議案第62号 平成30年度氷見市一般会計補正予算(第4号)中
地域振興課所管に係る事項……………説明書P.20

◎ 新文化施設建設室 10:15

- ・ 議案第62号 平成30年度氷見市一般会計補正予算(第4号)中
新文化施設建設室所管に係る事項……………説明書P.28

◎ 総務課及び選挙管理委員会事務局 10:35

- ・ 議案第62号 平成30年度氷見市一般会計補正予算(第4号)中
総務課及び選挙管理委員会事務局所管に係る事項……………説明書P.10
- ・ 議案第69号 氷見市一般職の職員の給与に関する条例等の一部改
正について……………議案書P.45
- ・ 議案第70号 氷見市議会議員及び氷見市長の選挙における選挙運
動用自動車の使用等の公営に関する条例の一部改正
について……………議案書P.58

◎ 税務課 11:17

- ・ 議案第62号 平成30年度氷見市一般会計補正予算(第4号)中
税務課所管に係る事項……………説明書P.10

◎ 財務課 11:19

- ・ 議案第62号 平成30年度氷見市一般会計補正予算(第4号)中
財務課所管に係る事項……………議案書P.1
- ・ 報告第17号 地方自治法第179条による専決処分について
専決処分第12号 平成30年度氷見市一般会計補正予算(第3号)……………議案書P.61

(注) 一般会計における繰出金(財務課を除く)、人件費(総務課を除く)、財源補正及び
節区分補正に係る説明は不要です。

主な質疑応答

<p>地域振興課 越田委員</p>	<p><案件外> NPOバスについて。先日運行を開始した速川、熊無の乗車率は。</p>
<p>戸田課長</p>	<p>乗車率という統計はないが、運行開始から1月余り経過し、回数券については2年前の久目線運行時に比べかなり多くの方に購入いただいている状況である。定期券については、今後徐々に伸びていくのではないかと期待している。</p>
<p>越田委員</p>	<p>大学生や高校生など学生の利用状況は。</p>
<p>戸田課長</p>	<p>上庄谷協議会が実施したアンケート調査では、沿線で80名程度の氷見高校生を把握しており、協議会では、氷見高校に出向いてバスの利用を働きかけている。久目、速川、熊無の3路線では、ほぼ毎日利用の生徒が19名ほど、時々利用する生徒が10名弱あると伺っている。協議会では、運行ダイヤ見直しも含め、生徒や高齢者の利便を考慮したいとの考えであり、市としても協力していきたい。</p>
<p>越田委員</p>	<p>市外に通学する高校生の利用状況を把握しているか。</p>
<p>戸田課長</p>	<p>氷見駅への連結という点で考えた場合、3法人全て氷見駅に乗り入れているものの、駅への到着時間が最も早いバスでも7時50分くらいであるため、学校始業時間には間に合わない状況である。今後、費用対効果を考えていく必要がある。</p>
<p>越田委員</p>	<p>バス導入に係るアンケート調査の結果は。</p>
<p>戸田課長</p>	<p>過去において路線バスが廃止されている神代線栗原線沿線地区を対象に、現状の把握を目的として実施したが、回収率約42%にあたる1,360人余の方に回答をいただいた。免許を持っていない方は15%、70歳以上の方のうち67%の方が免許を持っており、自由に使える車がある方もおおむね85%という状況であり、八、九割の方は不自由していないと受けとれるが、70歳以上の73%余りの方が10年後は不安を感じていることがわかった。 今後は地区毎にデータを集計し、検討材料としていきたい。</p>
<p>越田委員</p>	<p>既存路線、新規路線別の利用状況の推移は。</p>
<p>戸田課長</p>	<p>28年度と29年度の状況は、磯辺線は両年度ともに九、十人で変わらず、灘浦線も7人で変わらず、基石線は28年度8.8人に対し29年度が7.8人で若干減少、久目線は28年度途中からの運行で比較にならな</p>

越田委員	<p>いが、28年度5人に対して29年度は8人強になっている。新規の2路線は、今後、地域の皆様の声を聞きながら、より利用しやすい運行ダイヤの設定等に努めていただけるものと考えている。</p> <p>各路線、運行が維持できるように、地域の方々への周知に努めていただきたい。(要望)</p>
<p>新文化施設建設室 稲積委員</p> <p>京田室長</p> <p>稲積委員</p> <p>京田室長</p> <p>稲積委員</p> <p>京田室長</p> <p>稲積委員</p> <p>京田室長</p> <p>稲積委員</p> <p>京田室長</p>	<p><案件外></p> <p>新文化施設整備について。新文化施設の事業者現地説明会には18者の参加があったと聞いたが、プロポーザルに参加する事業者数の見込みは。</p> <p>見込むことは難しいが、明年1月15日から18日にかけて、優れた提案がなされることを期待している。</p> <p>プロポーザルの評価のポイントはどのようになっているか。</p> <p>選定基準はホームページで公表しているが、最も重視している点は、賑わいの創出、民間施設との連携による効果、それによる地域経済への貢献度などを重要な視点として、6項目挙げている。この6項目に加えて、公共棟施設の整備費、民間棟施設の借地料単価を提案価格としているので、これらを合わせた合計点で総合評価をすることとしている。</p> <p>これからはソフトが大事だと考えるが、ハードありきの計画と感じる。ハードとソフトどちらに重きを置いているか。</p> <p>公民連携や地域への波及効果など施設の運用に有効となるような施設整備・計画が大事である。その後の管理運営に係る計画なども今後十分に検討し準備していきたいと考えている。</p> <p>将来を担う子どもたちのため、また賑わい創出のため、氷見出身のアーティスト招聘を積極的に働きかけるべきと考えるが、例えば氷見出身の著名なミュージシャンのライブが可能であるか調査はしているか。</p> <p>スポーツや文化などさまざまな方面で活躍されている氷見出身の方がいらっしゃるの、いただいたご意見を参考に、市民の意見を十分に伺って運営計画を練っていきたい。</p> <p>氷見市から1時間圏内にある金沢市や富山市などを含めれば、150万人近い交流人口となる。このことも含めて今後の整備計画を進めるべきと考えるが。</p> <p>そのとおりと考えている。今回の公募に係る要求水準で最も重視してい</p>

<p>稲積委員</p> <p>林市長</p> <p>越田委員</p> <p>京田室長</p>	<p>ることは、多目的に活用できるという点であり、可動席を取り入れた平土間での活用を前提にしており、さまざまなジャンルで活用できるものにしていきたい。</p> <p>先日開催されたひみぶりフェアに、本市出身の紅白出場予定のバンドメンバーも参加していたが、氷見でのライブ開催について、市長はラブコールしたか。</p> <p>11月26日、渋谷で開催したひみぶりフェアにおいて、新文化施設完成の折には、ぜひ氷見でもライブを行ってほしいとお願いした。</p> <p>地域の歴史・文化に根ざした劇づくりで全国を行脚している「地劇」という劇団があるが、氷見ゆかりの脚本作りを念頭に、そのような団体を民間業者の候補の一つとすることへの考えは。</p> <p>市民の芸術文化を活性化するためには、施設をいかに有効活用するか、運営が大切であり、指定管理も有効な手段の一つである。各方面で活躍している方々の意見を取り入れる仕組み等検討してまいりたい。</p>
<p>総務課</p> <p>澤田委員</p> <p>川淵課長</p> <p>澤田委員</p> <p>川淵課長</p> <p>澤田委員</p> <p>川淵課長</p> <p>澤田委員</p> <p>川淵課長</p> <p>澤田委員</p>	<p><案件外></p> <p>文書管理について。氷見市の文書の保存期間はどのように決められているか。</p> <p>文書管理規程に定める基準を参考に、各課が所掌事務に係る文書等の保存年限をファイル基準表により定めている。</p> <p>文書管理は各部が管理しているのか。それとも一元管理している部署があるのか。</p> <p>各課でファイル責任者を置き、各課が管理している。</p> <p>書類の重要度の判定は誰がしているか。</p> <p>文書ファイル責任者が責任をもって管理している。</p> <p>各課の担当者が重要度を判定していることになるか。</p> <p>文書管理規程に基づいて、各課が適正に管理している。</p> <p>各課での管理となれば、市の上層部、中枢部は各課の管理状況をどのように把握しているのか。</p>

川淵課長	保存年限を過ぎた文書については、総務課で各課に通知を出すなど適正に管理している。
澤田委員	各課においてどのような書類が廃棄されたか、上層部、総務課に報告されているか。
川淵課長	毎年の文書移し替えに伴い、各課から総務課に報告があるため、総務課においてもしっかり管理している。
澤田委員	文書処分の記録簿はあるか。
泉澤主幹	廃棄は各所属の決裁に基づいて実施され、当該年度のファイル基準表に廃棄年月日を記載している。
澤田委員	その廃棄の記録の管理は総務課が行っているか。
泉澤主幹	文書の廃棄は総務課の指示のもと全庁的に行っているものであり、総務課での把握はもちろんのこと、各課でもきちんと管理している。
澤田委員	記録媒体の廃棄はどのようになっているか。
泉澤主幹	それぞれのパソコンに残っているデータについても、文書同様、保存期限が過ぎたものについて各課で処分することになっている。
澤田委員	管理規定は、文書のみならず記録媒体の廃棄も含めた規定となっているか。
泉澤主幹	文書管理規程中の「文書」にはデータも含まれている。今後増えることが見込まれるデータの管理を含め、文書管理をしっかりしていきたい。なお、保存年限経過文書は、無条件で廃棄しているのではなく、廃棄にふさわしくないものがないか中身を確認しながら行っている。
嶋田委員	財産区について。財産区ができた経緯を説明してほしい。
高橋部長	南中財産区は昭和3年、南下は昭和5年に設立されている。 氷見百年史によれば、山林などの入会財産は、明治になってから部落所有として登記できないこととなり、管理のあり方が変遷してきた。財産区制度は、全国的には町村合併時に旧村の財産を維持管理するためにできたものであるが、南中町では、共有地が名義人のものか町内全体のものかの争いがあった経緯を踏まえ、財産を法的に保全していくことができる財産区を設定することとなった。旧加納村、稲積村においては、財産区とは違

	<p>った形で財産が維持管理されている。</p>
嶋田委員	<p>氷見のような財産区は富山県内に存在しているか。</p>
高橋部長	<p>県内には、氷見2、滑川2、黒部7、朝日町1の計12の財産区があるが、氷見の2つが最も古く、他は昭和の合併時にできたものである。宅地を保有しているのは氷見の2つのみであり、他は雑種地もあるが基本的には山林である。</p>
嶋田委員	<p>県内では氷見の例が特殊であることがわかったが、全国的な状況は。</p>
高橋部長	<p>全国には平成28年4月1日現在で、3,995の財産区がある。国の面積の約37分の1にあたる9,993平方キロメートルの土地を財産区が保有しており、その大部分の8,686平方キロメートルが山林であり、宅地は22平方キロメートルである。</p>
嶋田委員	<p>全国的にこれほどまでに多くの土地を財産区が保有している現状からすると、財産区の解消を氷見単独で国や関係機関に働きかけてもその解消は難しいという認識でよいか。</p>
高橋部長	<p>解消ということになれば、法律改正をお願いするしかない。</p>
嶋田委員	<p>財産区の土地が課税されていないことにより、賃借料がかなり低く設定されているとのことであるが、民間の不動産価格とどの程度開きがあるか。</p>
高橋部長	<p>財産区では、長年利用されている方の賃借料は、坪800から1,000円であるが、例えば、市が保有する普通財産を民間に貸し付けする場合と比較すると5倍くらいの開きがある。ただし、財産区では、最初の貸付時1回限りであるが、路線価の2.5%相当の賃借権料を徴収している。</p>
嶋田委員	<p>財産区が相当前に価格設定した単価がそのまま残り現在に至っているためこのような開きが生じていると理解すればよいか。</p>
高橋部長	<p>新規貸付については、徐々に単価を上げているが、従前から借りている方には、従前の単価が引き継がれている。</p>
嶋田委員	<p>資産の運用について、用途の制限は設けられているか。</p>
高橋部長	<p>財産区の主たる目的は、保有財産が適正に維持管理され、住民の福祉が増進されることであり、その目的に沿った使われ方が求められる。もちろん</p>

	<p>ん、地方公共団体としての法人格であるため、政教分離に係ることについては制限があるものと理解している。</p>
<p>嶋田委員</p>	<p>区民福祉振興事業交付金として、南中では421万円、南下では150万円が交付されているが、内容はどのようなものか。</p>
<p>高橋部長</p>	<p>南中財産区では、町内環境の美化や健康づくり等の経費に人件費も含めて約140万円、祇園祭り等の地域行事の伝承に要する経費として約200万円、町内会等団体への寄付に充てたものが23万円、その他、地区内で交流会を行っている団体への助成が50万円余り、その他児童会への活動助成などがある。</p> <p>南下では、さまざまな団体からの寄付要請35万円のほか、活動助成として、壮年部に10万円、青年団に35万円、児童会に15万円、婦人部に10万円、老人会に40万円支出されている。</p>
<p>嶋田委員</p>	<p>集金した万雑により運営されている他の地域からすれば、財産区は特別である。南中では、今夏、市のせいで祇園祭りの山車を出すことができず、またその旨記載した文書が各戸に配布されたとの話を聞いたが、真相は。</p>
<p>泉澤主幹</p>	<p>南中町内会の祇園祭りにかかる費用は、南中財産区の区民福祉振興事業交付金で賄っている。今年度財産区の交付金予算は、町内会の要望どおりの予算となっており、5月には申請どおりの額を今年も町内会に交付している。市からの予算がもらえなかったため山車を出せなかったというのは、予算があるのに町内会が必要な額を申請してこなかったということであると思っている。</p>
<p>嶋田委員</p>	<p>市の事務処理は適正であったという理解でよいか。</p>
<p>泉澤主幹</p>	<p>市、つまり財産区の事務としては適正に執行している。</p>
<p>嶋田委員</p>	<p>財産区が残っていることへの不公平感は否めない。市長には、財産区が公益法人あるいは地縁団体に移行していただけるよう努力していただきたい。管理者である市長の思いは。</p>
<p>林市長</p>	<p>地方自治法には、財産区のある市町村の一体性を損なわないように努めなければならないとの規定もあり、市民感情からしても不公平であるとの指摘はもっともである。全国市長会等へ提案するとともに、固定資産税相当額の納入や適切な団体への移行について、今後、財産区の皆さんと話し合いをしていきたいと考えている。</p>

財務課	
越田委員	国庫補助事業の減額がいくつかあるが、国への申請がどれくらい認められたか。
大門課長	社会資本整備総合交付金について、平成30年度は、要望額に対し交付金ベースで約8割の内示があり、前年度の約6割に対して2割上昇している。
澤田委員	<p><案件外></p> <p>法定外公共物について。近年の年度別の売却状況は。</p>
大門課長	今年度は7件で、1,331,755円、平成29年度は4件で、1,106,639円、平成28年度は2件で、2,186,526円。
澤田委員	売り渡しの努力はしているか。
大門課長	広報に掲載するなどの活動は現在していない。
澤田委員	<p>他の地域の事例等を参考に努力していただきたい。(要望)</p> <p>柳田地区において同一形状の市道と市道に認定されない里道があるが、管理、担当部署が違うなど一般の人にはわかりづらい。地区の人が使いやすいように建設部と財務課で検討はできないか。</p>
大門課長	市民から市道に関する相談が財務課にあれば、建設課に付き添うなど協力しながら対応している。
澤田委員	一般市民にとって使いやすいように、両者で打ち合わせをして調整してほしいということを行っている。
大門課長	建設課とお互い協力しあって行っており、必要があれば両部署での相談対応もさせていただいている。
澤田委員	<p>現地を確認した上で、担当部長、建設部長も含めて検討してほしい。</p> <p>(要望)</p>